

谷川連峰・三国山&平標山（個人山行）

（報告）KM

◎山行期日：2024年6月13日（木）～14日（金）

◎メンバー：AH（L）、FY、IK、KM

去る3月9日に「湯河原幕岩クライミング&ハイク」に出かけた。当日は、梅まつりの最終日。天候にも恵まれ、寒さも遠のく春の趣で、「クライミング&ハイク」もそれぞれ楽しむことができた。帰路のバスはさすがに人も多く、満員のバスにゆられて湯河原駅へ。ここで藤沢在住のOTさんも合流して一献ということに。夕刻にはまだ早い時間で、見渡す店は開いていない。AHさんの独自の嗅覚で路地裏の店を探し当てもぐり込む。

今年は、20周年記念事業の年でもあり、10周年事業の際のお話や当時との違いなども伺い、周年事業に向けて示唆に富む時間となった、

その際に、シリウスの設立記念の山行にも利用されたという、浅貝・苗場地区にあるAHさんの山荘にも話が及び、IKさんと共に山荘に伺わせて頂くことになった。日時も早々に決まり、FY代表も加わり3名で訪問することに。

6月13日。8:30集合。時期的には梅雨の盛りではあるが天気は上々。IK車に3名が乗り込む。10時半頃、現地最寄り駅到着のAHさんに、少し遅れたが予定通り合流した。

ここからAHさんに案内頂き、まずは、スーパーにて買い出し。山荘には、食器類、調理用具、冷蔵庫、寝具等が完備とのこと、訪問客となる3人で、夕食、朝食などの食材やアルコール類を調達する。

山荘へは、つつら折りの道を走り30分ほどで到着。当時は分譲地内とのこと全体が見渡せたとのことであるが、現在は、月日を経て鬱蒼とした樹林に囲まれている。当時、山荘前に植えたという白樺の木も今は大きく育っている。

昼食をとりながら、AHさんより山荘の由来などを伺う。当初は、山ではなくスキーを目的に5人の仲間が集まり、建築関係の仲間に依頼して建てられたとのこと。山荘の梁や柱は原木がそのまま使われており、こだわりを感じさせた。築50年を感じさせない堅固な作りでした。

また、山荘に置かれた図書や雑誌、スキー等の装備も、時代を思い起こす、歴史を感じさせるものでした。

本日は、明日の平標山登山に備え、足慣らしも兼ねて三国山に登る予定であることから、昼食をとり登山支度をして、三国峠登山口に向かうことにする。

12:45 三国峠登山口着。新緑からもはや緑濃い登山道を行く。40分ほどで三国峠である。越後と関東を結ぶ三国街道の最大の難所といわれる峠である。

峠上に三国権現のお社とともに、この峠を越えた坂上田村麻呂を始めとする、武人や文人の名が石碑に刻まれている。越後人のひとりとしては、この峠から関東に下る山々や谷々を見下ろすと、この峠を多様な思いで越えて行った古の人々が偲ばれ、感慨深いものがある。



三国山までは一時間ほどである。展望もよく開放感のある登山道を周囲の山々や花々を愛でながら登る。草木の緑も生き生きとして美しく、明日の慣らし以上に元気が湧いてくる山行でした。



<三国山山頂>

16:00 過ぎには三国山から山荘に戻る。お風呂をいただき汗を流し、スーパーで買い出した食材で、正月の鍋山行に引き続いてFYさんが鍋奉行となりキムチ鍋を作ることに。50年の歴史とエピソードの詰まった山荘の雰囲気の中、お酒も入り、問はず語りに多様な話となり楽しい一夜を過ごさせて頂きました。

6月14日。4:00 起床。5:30 平標登山口。多数の車が駐車しており、思いのほか登山者も多い。登山口からAHさんに先導頂き出発。昨日に続いての快晴で初夏が近づく風を感じながら、続々と登って来る登山者と前後しながら登る。登るに従って視界もひらけ、陽射しも強くなり気温も上昇しそうな気配である。中間地の松手山には、7:35 着、平標山への緩やかな斜面と周囲の山々の視界が広がる。

今年、IKさんは、松手山が100座、平標山で101座目とのこと。要した日数は30日あまりで達成したとのこと。

松手山からは、去年の月山を思わせるような丸い大きな斜面を登り詰めていく。振り返ると苗場山のテーブルマウンテンの様な稜線が見渡せる。梅雨の季節とは思えない澄み切った風景である。



<苗場山>

9：30 平標山。上越の山々が一望できる風景が広がる。仙ノ倉山から万太郎山へと稜線が続く。1970年代初め、22：13 上野発の夜行列車に乗り、この仙ノ倉谷の毛渡沢や西ゼンを詰めてこれらの山々の稜線に抜けた。平標山もそれ以来である。穏やかな山頂の風景に浸りながら写真を撮ったり、食事をしたりの大休止。平標から仙ノ倉山を往復する予定であったが、暑さで消耗したこともあり、ここから平標山ノ家をへて下山とする。



＜平標より仙ノ倉山＞



＜仙ノ倉山山頂＞

平標山ノ家では、谷川岳まで縦走するのだろうか、テント泊の装備で複数の女性の単独行者が行き交っていた。今どきの山へのアプローチの変化を感じた。下山後、猿ヶ京温泉の「まんてん星の湯」に浸かり、山の疲れを癒すことができた。

本山行では、AH さんに山荘の宿泊から今後の会山行を見据えた計画まで、そして、癒しの湯まで大変お世話になりました。今後の山行に生かしていきたいと思います。有り難うございました。

《コースタイム》

13 日 三国峠登山口（12：45）～三国峠（13：23）～三国山（14：30）～三国峠 15：15）～登山口

14 日 平標登山口（5：30）～松手山（7：35）～平標山（9：30）～平標山ノ家（10：40）～平元新道～林道（12：03）～平標登山口